

とうきょう

2024.2.29

No.2

会報

お知らせ

東京体育学会第15回大会のご案内

日時：令和6年3月11日（月）13:00～17:30

場所：日本女子体育大学

主催：東京体育学会

会長：船渡 和男（国士舘大学）

理事長：田中 重陽（国士舘大学）

連絡先：東京体育学会事務局 tokyotai@kokushikan.ac.jp

【もくじ】

- ・第103回研究会開催報告（2）
- ・東京体育学会第15回大会の概要（3）

第 103 回研究会報告

2023年12月16日に東京体育学会が主催する第103回研究会をオンライン形式で開催した。テーマを「握力が罹患率・死亡率を予測できる機序の解明—身体活動の貢献度を探る疫学的調査—」に設定し、順天堂大学スポーツ医科学研究所客員教授の安部孝先生にご講演いただいた。

開催概要

日時：2023年12月16日（土）15:00～16:30

方法：オンライン（Zoom）形式

テーマ：握力が罹患率・死亡率を予測できる機序の解明
—身体活動の貢献度を探る疫学的調査—

演者：安部 孝（順天堂大学スポーツ医科学研究所 客員教授）

参加者：約 40 名

東京体育学会 第103回研究会

握力が罹患率・死亡率を 予測できる機序の解明 —身体活動の貢献度を探る疫学的調査—

2023年
12月16日 土
15:00～16:30

オンライン開催
参加費：無料（非会員も無料）

講師：安部 孝 先生
(順天堂大学スポーツ医科学研究所 客員教授)

【概要】
疫学研究によると「握力の低い人は心臓病や糖尿病などになりやすく、死亡率も高い」と報告されている。一方で握力は、成人以降では加齢による低下が起こる年齢までは変化しにくく、よって、高い握力を獲得するチャンスは成長期にあると考えられる。順天堂大学が保有する体格体力量加測定のデータでは、成長期のスポーツ活動は握力の向上に重要だが、ポイントはスポーツ種目（プレー中に用具を手で握るか否か）であることがわかった。興味は子どもたちがそれらのスポーツを実施する場合、プレー中に用具を握る効果は何歳から現れ始めるのか、成長期に獲得した握力はスポーツをやめたら消えてしまうのか、そして、成長期にスポーツで獲得した握力は罹患率や死亡率に好影響をもたらすのか、であった。

Zoomのアクセスはこちらから



主催：東京体育学会 会長 船渡和男 理事長 田中重陽

東京体育学会第15回大会の概要

日 時 : 令和6年3月11日(月) 13:00~17:30
場 所 : 日本女子体育大学
参加費 : 会員は無料、非会員は1,000円

大会プログラム

13:00~13:10 開会式
13:10~14:50 シンポジウム 海外へ発信する日本のスポーツ産業
15:00~16:00 一般研究発表 概要説明(2分間の口頭発表)
16:10~16:50 一般研究発表 ポスター発表(責任着座制)
17:00~17:30 総会、表彰式、閉会式

シンポジスト

- 柿澤 雄二氏(スポーツ庁 参事官(国際担当))
テーマ: スポーツ産業の国際展開の促進について
- 水鳥 寿思氏(慶應義塾大学/株式会社 MIZUTORI 代表取締役/
(公財)日本体操協会男子強化本部長)
テーマ: ICT教材を活用した効果的な運動学習に関する取り組みの検討
- 池田 圭吾氏(株式会社川崎フロンターレ 営業統括部
パートナーリレーション部(海外担当) マネージャー)
テーマ: プロサッカークラブによる海外事業展開
- 石塚 大輔氏(スポーツデータバンク株式会社 代表取締役)
テーマ: 日本型部活動の海外輸出による地域スポーツの展開
- 阿部 篤志氏(独立行政法人日本スポーツ振興センター 総合企画部 主幹)
テーマ: スポーツを通じた国際交流・協力「スポーツ・フォー・トゥモロー」

一般研究発表 27 演題

会報「とうきょう」2023年度 第2号

発行日 : 2024年2月29日 編集 : 広報委員会
発行人 : 東京体育学会 会長 船渡和男
〒206-8515 東京都多摩市永山7-3-1
国土舘大学大学院スポーツ・システム研究科 助手室 東京体育学会事務局
e-mail:tokyotai@kokushikan.ac.jp